

● 7月8日(日) 晴 黄金山(739.5m)

・増毛で泊まった道端の公園は大変良かった。目の前に流しとトイレがあり、公園の向こう側にはセブンイレブンが一晩中営業していて安全だ。ぐっすり寝たので3時過ぎに目が覚めて、それからうとうとしながら5時前に起床した。天気は快晴で、目の前には昨日登った暑寒別岳がくっきりと聳えて見える。

ゆっくりと朝食をとり7時過ぎに今日登ることに決めた黄金山に向けて出発した。

・海岸にそって走る国道231号線を浜益へ向けて南下したが、南へ行くに従い雲が多くなり、浜益に着いた時はすっかり曇ってしまった。浜益で国道451号線に入り東へ向けて少し走ると「黄金山登山口」と書かれた標識が立っていて、ここから砂利道の林道を4kmほど走ると黄金山登山口に到着する。

林道の入り口が判りづらいのと、標識が目立たないので、見落として行き過ぎてしまい、しばらく走ってから、どうもおかしいので引き返してきて、入口を見つけた。

・登山口には駐車場と立派なトイレが建っていて、かなり人気のある山のような。今日は日曜日なので登山者が多いと思ったが、私が着いた時はまだ車は一台も止まっていなかった。登山の準備をしていると、札幌ナンバーの車が2台で、若者が3人やってきて、さっさと登って行ってしまった。

・北海道の山はほぼ例外なくアプローチが長いが、この山も例に違わず、林間の草付きのアプローチをしばらく歩いて新道と旧道の分岐に到達する。昨日の暑寒別のアプローチと違って蚊の襲撃がなかったので助かった。ガイドブックによると旧道は荒廃気味で急坂なため新道を登れとのことなので、分岐を右側の新道へと入ったが、さあ、ここからが円錐型山の急坂の始まりだ。円錐の斜面をジグザグに登るのかと思ったら、なんと、登山道はほぼ直登で登るように着いている。おまけに階段など殆ど整備されておらず、荒れほうだいで土埃のひどい悪路。





ほぼ全行程、両側あるいは片側にロープが張ってあり、それに  
掴まりながら登った。まいったね！ この急坂を一気に登ると  
左手から 旧道が合流するが、覗くと奈落の底に落ちるような  
急峻の登山  
道らしい道  
が見え、これ  
は歩かない  
方が無難だ  
と思った。



旧道・新道の分岐



下から上までロープが頼り

・ 山頂近くなると岩場になり、山頂部は絶壁に囲まれて  
いてかなり狭く今にも落ちそうだ。滑落に気をつけ  
ながら慎重に登った。岩の割れ目からミヤマキンバイ  
が芽を出して可憐な花を咲かせて私を癒してくれた。

とっくに着いていた札幌の若者3人とは山頂で合流  
したので、彼らと一緒に記念写真を撮った。彼ら  
は旧道を登ってきたとのこと、やはり若いんだね。



山頂直前は何もない岩場



山頂で札幌の若者と記念



山頂の岩場ではミヤマキンバイが

・ 山頂はガスに覆われて視界が無いのが残念だ。雲が上がってきたので張れるかと期待したが、次々と  
雲が湧いてくるので諦めて、30分くらい山頂で休んでから、同じ新道を下山した。

下りはそれこそロープに掴まりながら安全確保の下山、登山口駐車場に11時過ぎに着いたが、駐車  
場は車がかなり止まっていた。低い山のくせに陰しく面白く、十分楽しんだ黄金山だった。山頂はガス  
の中に隠れているが、登山口は雲の下なので真夏の太陽が照りつけて暑い。

トイレの横に水道があったので、埃と汗まみれのシャツとズボンを水洗いした。

・これで今回計画した山は全て登り終えたので、あとは帰るだけだ。今夜は温泉に浸かってレストランで食事をしたいな。この近くでは道の駅「つるぬま」だなど、鶴沼に向けて黄金山を後にした。

今登ってきた、山頂を雲に隠して聳える黄金山を左手に見ながら国道 451 号線を滝川を目指して西に向けて走るが、良い道なのに車が一台も走っていない。マイペースの 60km 走行でも誰にも迷惑がかからない。滝川に着くまでに追い越された車は 2 台のみだった。



山頂を雲に隠した黄金山を左手に見て

滝川から国道 275 号線を南下して道の駅「つるぬま」に着いたが、ここにはコンビニが無かったので 5km も離れた隣の奈井江町まで買い物に行って戻ってきた。空はどんよりと曇り雨もぱらついてきた。現在 4 時だが、とにかく温泉に入って今年の北海道山紀行終了の祝杯をあげよう。鶴沼には毎年のように来ているのに鶴沼温泉に入るのは初めてだ。こじんまりしていてなかなか良い湯だが結構混んでいた。温泉から出て良い気分で、さあ祝杯とレストランへ行ったが、大したメニューが無く期待外れでがっかりした。生ビールに枝豆、「鶏の照り焼き定食」と祝杯にしては寂しい食事だったが、風呂上がりの一杯が効いて良い気分になった。まだ明るいのに 6 時過ぎに車のベッドにもぐりこんだ。

夜中は結構雨が降っていた。

## ● 7月9日（月） 雨／曇 移動（毎年お馴染みの恵庭へ）

・朝 5 時起床、雨はやんでいるがどんよりと曇っている。雨で濡れている車体を利用して、簡単に洗車して帰京に備えた。小雨がパラついてきたので朝食は車内で簡単に済ませた。

・昨夜いろいろ検討したが、今後天候が期待できないし、予定の山は登ったので、予定より 2 日も早いですが、11 日に小樽から帰途に着くことに決め、今日小樽のフェリーターミナルへ寄ることにした。7 時 30 分小雨の降る中小樽へ向けて出発した。国道 275 号線を南下し途中から 337 号線へ右折して札幌の北を走って小樽に入った。フェリーターミナルに寄って 7 月 13 日出港の予約を 11 日の出港に変更手続きをしたが、手数料 10% (2970 円) も取られてしまった。さてこれから 11 日までどうしよう。

・そろそろ昼時、大滝の「特製大滝そば」が食べたくなったので、大滝へ向かった。定山溪温泉を抜けて中山峠を越え喜茂別へ向かった。

途中「さっぽろ湖」の横を通ったが初めての道で初めての湖だ。雨も上がったので展望台から湖を眺めた。



初めて来たさっぽろ湖



中山峠は「望羊中山」と云って羊蹄山が真正面に聳えて見えるはずだが、一面ガスに覆われて何も見えない。前に来た時も同じようにガスの中だったな。

喜茂別では山頂を雲の中に隠した懐かしい尻別岳を眺めながら走り、大滝に 12 時半に到着。「きのこ王国」の「特製大滝そば」にありついた。期待通り安くてうまい！

今日の宿泊は定宿にしている道の駅「花ロードえにわ」に決めて支笏湖の南岸を走って恵庭に向かった。この道は今までに何回走っただろうか。支笏湖岸も良いが支笏湖・千歳線（16 号線）は両側が原生林の直線道路で、こんな道は北海道でなければ走れない、何回走っても飽きない大好きな道だ。



道の駅「えにわ」では何時もの位置に車を止めた



道の駅「えにわ」の花時計

・いつもは混雑している道の駅「えにわ」は今日は比較的空いていた。月曜日だしおまけに雨模様だからかな。気温は 18℃で少々寒いので、長袖にウインドブレーカーを着込んだ。いつもの場所に駐車して落ち着いてから、今回の山紀行のまとめに取り掛かった（写真の整理、行動日誌の整理、金計算など）。

前にあるフードセンタ（フードD）で仕入れて来たエビチリで乾杯、最後はちらし寿司で締めて、山紀行無事完了を祝った。7時前に就寝。

夜中トイレに起きたら、駐車場には大型トラックが 数 10 台、乗用車が 50・60 台も止まっており満杯状態だ。やはり交通の要所だし広い駐車場完備の良い道の駅だけあるなと納得した。